

# 地域と共に歩む出張清掃の取組

【学校名：千葉県立我孫子特別支援学校清新分校】

\*\*\*\*\*

～取組のポイント～

コース実習の授業で清掃の知識や技術を学んだ高等部生徒が、近隣の中学校へ出向き、中学生と一緒に清掃活動を行いながら床清掃や窓清掃の方法を教えた。教える立場として活動し、その体験を基に振り返ることで自己の気付きを促し、主体的な学びへとつなげた。

\*\*\*\*\*

## 1. 実践の概要

---

### (1) 対象生徒

特別支援学校高等部普通科職業コース（高等部1年～3年）

### (2) 各教科等を合わせた指導

職業コース実習（メンテナンスサービスコース）

### (3) 目標

- ①主体的・対話的で深い学びとしての清掃活動として近隣の中学生に対して清掃の技術を伝えるとともに、学校内で学んだ技術や理論を再確認する。
- ②地域の学校との連携を重視し、共に学び合う場をつくる。

### (4) 学習計画

平成29年9月27日～平成30年2月19日（全15回）

## 2. 実践の内容

---

### (1) 取組までの経緯

本校は、教育課程の中心にコース実習を位置付けている。その一つ、メンテナンスサービスコースは、清掃活動を通して働く力を身に付けることを目的の一つとしており、地域の小、中学校や近隣の施設に出向いた出張清掃を行っている。昨年、近隣の中学校に出張清掃に行った際、特別支援学級の生徒が清掃の活動場面を見学することがあり、手際よく仕事を行う生徒の姿やプロの清掃用具を使って窓や清掃を行う生徒の姿を見て、「こんな高校生になりたい」「高校生に清掃を教わりたい」という中学生の声が挙がった。このことをきっかけに、中学校（特別支援学級）の生徒と共に清掃を行う取組が始まった。

### (2) 内容

月に一回、本校の生徒が2名ずつ、中学校（特別支援学級）へ出向き、清掃（窓、床）の手順や方法を教えながら一緒に活動している。中学生と高校生が「共に活動する」ことにあたり、初回は相互理解を基本とし、お互いの自己紹介や本校の取組について話をした。また、働く上では技術だけではなく、「挨拶」「返事」「身だしなみ」という基本的なことも必要であることを伝えた。

## 3. 工夫点

---

### (1) 事前・事後学習

相手に伝える立場として、自分達の清掃技術の再確認、そして伝達の方法について、事前に確認し合う時間をつくった。「なぜ」「どうして」という視点を持ちながら自分の技術を再確認することで、中学生にも分かりやすく説明できるように準備を進めた。また、実習後、振り返りの時間を設定し、技術面だけではなく、中学生との関わり方や清掃の教え方、言葉の伝え方等について生徒同士で振り返ることで、次時の出張清掃での中学生との関わりに改善が見られ、

より主体的に活動に取り組むことができるようになった。

## (2) 教員同士の連携（共通理解）

実習の流れの確認だけでなく、両者の立場からの実習の必要性、意義等について十分に理解し合い、両者にどのような教育的効果があるのか、目標と評価を明らかにして、両者の成長につながるための話し合いを重ねた。

## 4. 実践の評価（成果と課題）

---

### (1) 成果

当初は、中学生との関わりや、教えることへの不安を抱える生徒もいたが、実際に中学生と関わる場面になると、自然と会話が溢れ、先輩として手本となる行動を示し、中学生の目線に合わせて話をしたり、相手に合わせて教え方を工夫したりと、学校では普段なかなか見られない生徒の様子が自然と出ていた。また、普段は教わる立場が多いことから、どのように教えれば良いのか戸惑う生徒もいたが、中学生から頼られることで、他者から求められている自分に気づき、必要な存在としての自覚がもてるようになり、これまで自分が学んできたことについて自信をもって教える姿が見られるようになった。

「伝える側」に立ち、異年齢の人との関わりや対話を通して相手を気遣い、思いやるなど、常に相手のことを考えながら行動できるようになってきたことは、他の出張清掃先や学校生活へもつながった。



【窓清掃の様子】

この取組は二年目であるが、活動を重ねていくにあたり、生徒一人一人の様子に変化が見られた。普段「学ぶ側」である生徒が、清掃を「伝える側」に回ることにより、他者から必要とされ、感謝を受けることで自信が高まり、「次回は〇〇を教えたい」「〇〇すればよいのでは」といった生徒達からの声が積極的に挙がるようになってきた。これは、生徒達自らが学びの場をデザインするスタンスに立てるようになったことであり、毎回楽しみに待っている中学生の姿や御礼の手紙をもらうことで、本校の生徒はこの取組の意義や達成感を味わえていると考えられる。



【床清掃の様子】

中学生の生徒も、当初は雑巾の絞り方や清掃用具の名前を覚えることで精一杯だったが、二年間の取組を通して、窓や床清掃の基本を身に付けることができ、更に、清掃へ興味を示す生徒が増えた。また、中学校卒業後のイメージがもてるようになり、「本校を受検したい」と自ら進路先を選択する生徒や、「なぜ高校に行くのか」と高校に行く意味を考えられるようになった生徒も増えた。

今回の取組を通して、特別支援学級の生徒をはじめ、通常学級の生徒や先生方にも本校について知ってもらうことができ、中高の連携を深めることができた。

### (2) 課題・展望

これからも、地域協働活動を通して、生徒達が異年齢の人との関わりで、自ら感じる事、気付くこと、得られること、その過程を経て成長する節目や気付きの場を意図的につくっていきたいと考えている。また、中高の連携を充実させ、連続性のある教育を実践していきたい。

## 5. その他（参考文献等）

---

- ・職業学科3校合同研究実践事例集 地域と共に進めるキャリア発達支援【ジアース教育新社】
- ・高等学校における特別支援学校の分校、分教室 全国の実践事例集 23 【ジアース教育新社】